



子ども達を被害から守りましょう！

27日付の佐賀新聞の紙面には、子どもの性被害が過去最多だったこと、AI を悪用したネット犯罪が低年齢化し専門家が警鐘を鳴らしていることが並んで掲載されていました。特に注目したのは、ネットやスマートフォンの普及で犯罪ツールが子ども達の身近にあるということでした。どちらの事件も被害者の中に小学生が多く含まれています。専門家は、「保護者よりネットの知識がある子どもは多く、悪いと思って好奇心から手を出してしまう。ネットやスマホを一概に禁じるのではなく、普段から親と子がコミュニケーションを取りながら一緒に使い方を考えることが重要だ」と伝えています。

大人でもついクリックしてしまいそうになる場面があります。進級・進学のと時期にあたり、子ども達を危険から守る安全対策を周囲の大人が心がけていきたいですね。

3年生は今月でさんこう児童クラブを巣立っていきます。みんなで楽しく送り出したいと思います。

3月の目標

「先生や友達の話の間こう」

人が話しているときは聞く。伝えたいことがあったら、話している人の話が終わってから言う！

★お礼★

少し早いですが、ご挨拶とさせていただきます。令和7年度が早くも残り1か月となりました。保護者の皆様の日頃からの様々なご理解、ご協力により、今年度もここまで無事に運営ができていますことに感謝申し上げます。残りの期間も、楽しく過ごせるよう、安全に留意して努めて参りますので、今後とも引き続きのご支援をよろしくお願い致します。日々、子どもたちと過ごさせていただき、本当にありがとうございます！

★やったあ！竹馬だ！★

小学校でも竹馬を頑張っている子どもたち。「児童クラブでも竹馬をやりたい！」という言葉が聞かれました！児童の思いが叶い、今では毎日竹馬を楽しみにしている子がたくさんいます。

♪初日の様子♪↓



♪どンドンできるよように♪↓



高さを上げて挑戦です★

♪1週間後♪↓

できる子が増えてくると、カラーテープを使って自分たちで竹馬のコースを作ってみました！3年生が友達と協力し、後ろ向きで歩くところや通る道を選べる場所を作り、実際に試しながら長さを調節していました(^o^)

♪今では♪↓

竹馬に乗ってボールを蹴ることができるようになってきて、竹馬サッカーができるようになりました！遊びが派生してさらに盛り上がっています♪

自分たちで展開する力を今後も伸ばしていけるよう、職員も柔軟な発想を提案できるよう考えていかなければと児童に刺激を受けているところです(^o^)

教え合ったり、見て学んだり、学びの場にもなっていることも嬉しく思います★

今後も新しい技を磨き、できるようになる喜びを味わってほしいです(^o^)

3月の学童児童数

	在籍者数	休所者数	利用者数	そのうち新規入所者数	2月末退所者数
1年生	12	0	12	0	0
2年生	4	0	4	0	0
3年生	14	0	14	0	0
計	30	0	30	0	0

幼児期における「数概念」の獲得 ～一生の論理的思考を支える根っこ～

幼児保育学科 教授 川邊浩史

お子さんが「いち、に一、さーん」と指をさして数え始めたとき、私たちはつい「数字を覚えた！」と喜びがちです。しかし、発達心理学の視点で見ると、言葉としての数字（数唱）を覚えることと、「数という概念」を本当に理解することの間には、発達のステップがあります。そこで、幼児期に育まれる数概念の本質と、それが将来どのような力につながるのかを考えていきましょう。

1. 「数唱」から「数概念」へのステップ

幼児期の数の理解は、単なる暗記ではなく、以下の3つの重要なステップを経て成熟していきます。

- 1対1対応の原則：「りんご」と「1」という数字を正しく結びつける力です。指で一つずつ指しながら、数え飛ばしたり二重に数えたりせずに進める力は、集中力と空間把握能力の賜物です。
- 集合数の理解：「1、2、3……全部で3個！」と、最後に言った数字がそのグループ全体の量を表していると気づく段階です。これは抽象的な思考の第一歩です。数学的には序数とも言います。
- 保存概念の獲得：有名な心理学者ピアジェが提唱した概念です。例えば、並んだ5つの石を「広げて置いた」としても、数は変わらないと理解すること。見た目の変化（長さや広さ）に惑わされず、本質的な「量」を捉える力です。

2. 数概念が将来の何につながるの？

幼児期の「数遊び」は、算数のテストで良い点を取るための準備ではありません。それは、生涯にわたる「思考の基礎」を構築する作業です。

- 論理的思考力と問題解決能力：数は、この世界を整理するための最も強力なツールです。「あっちの方が多いい」「これを分けるとこうなる」という推論は、論理的な脳を育てます。
- 抽象化能力（本質を掴む力）：「3個のりんご」と「3頭のゾウ」は、見た目は全く違いますが、「3」という共通の性質を持っています。具体的なモノから共通点を見出し、抽象化して考える力は、将来のビジネスやクリエイティブな活動において、複雑な事象をシンプルに整理する力へと直結します。

3. 保護者のみなさまへ：日常でできること

特別な教材は必要ありません。おやつを分けるとき、階段を上るとき、おもちゃを片付けるとき。「あといくつかな？」「お母さんとどっちが多いかな？」といった日常の対話が発達支援になります。そして、正解を教えることよりも、お子様が「あれ？不思議だな」と考え、試行錯誤するプロセスを、ぜひ一緒に楽しんでください。その温かなやり取りの中で育った「数の感覚」は、将来お子様が広い世界を理解するための、確かな礎となるはずです。